

魔法の Wallet プロジェクト 活動報告書

報告者氏名： 宮脇 幸奈 所属：北九州市立小倉総合特別支援学校 記録日：2020年 2月21日
キーワード：語彙力、見通し、スケジュール、動画・写真、読み書き支援

【対象児の情報】

- ・学年 小学部1年生
- ・障害名 病弱（心臓機能障害）、知的障害
- ・障害と困難の内容
 - ・何事にも意欲的に取り組むが、何をしたらよいか分からないことがある。
 - ・日常生活で使用頻度の高い言葉は明瞭に話すことができるが、基本的には発音が不明瞭である。
 - ・一緒に過ごす時間が長い相手は聞き取ることができるが、普段接していない相手には伝わらないことが多い。

【活動目的】

◎当初のねらい

- ①具体的なスケジュールの提示があると、見通しをもって主体的に活動できる
- ②学校生活と日常生活で使用する言葉を中心に覚えることができる

また、語彙を増やしていくとともに、平仮名の習得を目指すこととした。対象児の発音が不明瞭という点を考えると、平仮名を習得することで、今後伝わりにくい相手にも伝わるコミュニケーションの手段の一つと成り得ると考えた。そこで、以下のとおりねらいを修正した。

◎新たなねらい

- ①具体的なスケジュールの提示があると、見通しをもって主体的に活動できる
- ②学校生活と日常生活で使用する言葉を中心に覚えることができる
- ③平仮名の読みができる

- ・実施期間 2019年5月～2020年3月
- ・実施者 宮脇 幸奈
- ・実施者と対象児の関係 担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

ねらい①具体的なスケジュールの提示があると、見通しをもって主体的に活動できる

朝と帰りの準備に関して

・自分でしたいという意欲は強いが、何を準備するか、どこに出したりしまったりするかが分からないことが多い。ハンカチや連絡袋などをランドセルから出さずにランドセルを棚にしまう、何をランドセルにしまうか分からずに、何もしないということがある。教師が手伝おうとすると、「自分でしたいのに。」と言い、手を組んで怒ったしぐさをする。

1日のスケジュールに関して

・いつお茶を飲むか、いつトイレに行くかが分からずに、教師から促されるまま行動することが多い。また、保護者から「水分をとりたがらないので、こまめに水分補給をしてほしい」との要望があったので、休み時間には必ず水分補給をするよう促した。また、トイレトレーニングのため、定時排尿を行うことにした。

ねらい②学校生活と日常生活で使用する言葉を中心に覚えることができる

・本児の使用頻度の高い言葉ははっきりと話することができるが、使用頻度の低い言葉は不明瞭なことが多い。また連絡帳やランドセル等の学校生活で新たに使用する言葉は覚えていない。

・難しい言葉でも、よく使う言葉（本児が利用している放課後等デイサービス事業所の担当者氏名）ははっきりと話することができる。

ねらい③平仮名の読みができる

・平仮名は読むことができない（1学期時点）。絵本を読むときには、絵を見て楽しむか、「これ読んで。」と言うなど、文字の存在には気付いている。

○活動の具体的内容

実践①具体的なスケジュールの提示があると、見通しをもって主体的に活動できる

朝と帰りの準備に関して（5月30日～11月29日）

・5月末から、一つの物を一つのカードに提示して、準備が終わったら写真カードをめくる手だて①に取り組んだ（写真①）。

・手だて①は、ランドセルから荷物を出す順番が決まっていないことから、この手だては対象児にとっては分かりにくいと考えた。ランドセルから出す物、ランドセルに入れる物を一つの台紙に並べて提示する手だて②へ移行した（写真②）。ランドセルから出す物、ランドセルに入れる物の写真カードを一つの台紙に並べて提示し、準備するものを自分で確認し、はがすようにした。1週目は教師と一緒に、出し入れしたら写真カードをはがすことを繰り返し、一人でカードを見て準備できるようにした。

・9月から順番関係なく準備できるように、A4版の半分程度の紙に、準備物を全て載せ、終わったらシールを貼る手だて③へ移行した。

1日のスケジュールに関して（5月30日～11月29日）

・1日のスケジュールを絵カードに示し、トイレや水分補給のタイミングを提示した。終わったら絵カードをはがすようにし、終わった活動と終わっていない活動が区別できるようにした。朝と帰りの準備同様、1週目は教師が声かけをしながら活動した。



写真①朝と帰りの準備手だて①



写真②朝と帰りの準備手だて②



写真③朝と帰りの準備手だて③



写真④1日のスケジュールカード

実践②画像や動画を介して学校や家庭での出来事を伝える中で、言葉を覚えることができる

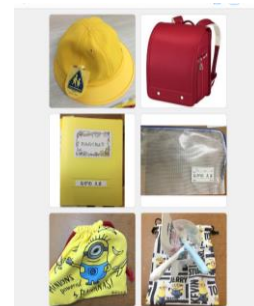
『DropTalk』での言葉の学習（5月30日～9月27日）

使用したアプリ『DropTalk』



・学校で使用する言葉を精選し、『DropTalk』のキャンバスを利用して、言葉の学習をした。学校で使用する言葉は、A児の準備物や教室でよく使用する物を選んだ。

・教師から「〇〇はどれ？」と尋ねられると、それに指差しで答えたり、音声の流れた後に、音声模倣を行ったりした。



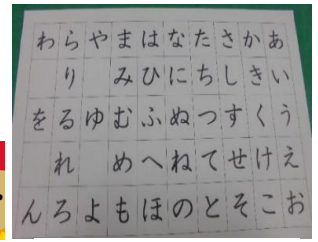
写真⑤『DropTalk』の言葉の学習

実践③平仮名の読みができる（9月末～3月23日）

- ・平仮名マッチングシート（写真⑥）を使用し、平仮名の形の違いに気付くことができるようにした。一つ一つの文字を貼る際に、音声模倣をするようにした。
- ・同時に簡単な文字から、平仮名の書きの練習も加えた。その際に、アプリ『ひらカタ』を用い、正しい書き順も合わせて覚えることができるようにした。



ひらカタ



写真⑥平仮名マッチングシート

○対象の事後の変化

実践①具体的なスケジュールの提示があると、見通しをもって主体的に活動できる

朝と帰りの準備に関して

手だて①導入後

- ・5月末は、写真を見て、その物を出すことがほとんどなかった。教師が写真を提示しながら、「これ出すよ。」と声をかけることで準備することができた。

手だて②導入後

- ・初めは「何これ？」と質問したり、「帽子」「かばん」と写真を見ながら言ったりしていたが、7月17日には、準備する物を出したらスケジュールカードをはがすという仕組みを理解し、自分で「出したね。」「先生、水筒出したよ。」と教師と確認しながら準備をしていた。
- ・1学期の終わりには、自分で終わったものをはがし、次に何を出すかを確認しながら準備していた。自分で出したらハガキに慣れてきて、自分でスケジュールカードを確認することができるようになった。
- ・ハンカチは自分でかばんに入れることが難しく、教師からの声かけが必要であった。ハンカチを入れていないのに、「入れたね。」と言うことや入れていないのにスケジュールカードをはがそうとすることが多かった。これは、お箸セットや水筒は自分の机の横にかけておりすぐに取り出すことができるが、ハンカチは他の物とは違う場所（ランドセルを置いている棚）に置いており、入れ忘れやすいためだと考えられた。9月から引き出しの中にハンカチをしまい、移動しなくてもかばんに入れることができるようにした。すると、自分で引き出しから出し入れし、ハンカチの入れ忘れがなくなった。

手だて③導入後

- ・順番に関係なく、自分で準備した物を出して、準備できたら自分でシールを張るようになった。教師の声かけがなくても、準備できるようになった。12月からは手だてをなくしたが、継続して朝と帰りの準備ができるようになった。
- ・朝と帰りの準備が短時間でできるようになったことで、自由時間が増え、自分の好きなお絵かきをしたり、絵本を読んだりできるようになった。

1日のスケジュールに関して

- ・7月に入ると、自分でスケジュールカードを手に取り、次の活動を確認するようになった。トイレカードを指差して、「トイレ行ってないね。」と言ったり、お茶を飲むタイミングでは、「先生、お茶飲もう。」と言ったりしていた。その後は必ず行動に移し、トイレに行ったりお茶を飲んだりしている。
- ・1学期末や2学期からは、スケジュールカードに「トイレ」があっても、「トイレ行かない。」と言うことがあった。その時にはトイレに行かず、次の時間に行くようにしている。一方で、スケジュールカードでは「トイレ」の時間ではなくても、「トイレ行きたい。」ということがあった。
- ・3学期には、スケジュールカードの手だてを減らし、「トイレ行きたい。」「先生、お茶飲んでいい?」と言

う回数が増え、自分の意思が伝えられるようになってきている。



写真⑦朝の準備を写真カードを見ながら確認している様子



写真⑧1日のスケジュールカードを見て確認している様子

実践②学校生活と日常生活で使用する言葉を中心に覚えることができる

- ・導入を開始した日には、教師が6つの選択肢の中から、「〇〇はどれ？」と尋ねると、指差しすることができた。教師が「これなに？」と順に聞いていくと、精選された14個の言葉のうち5個答えることができた。
- ・『DropTalk』での学習を継続して行くと、6月下旬には朝や帰りの準備の際に、連絡袋のことを「ふくろ」と言ったり、「ハンカチ」「歯ブラシ」と自分から言ったりするようになった。
- ・2学期に入り、『DropTalk』での学習をしてみると、ほとんどの物の名称を覚えており、学校で使用する14個の言葉のうち、12個を教師の声かけやヒントなしで言うことができた。

実践③平仮名の読みができる

- ・平仮名のマッチングシートを使った学習では、自分で文字の形の違いを理解し、同じ文字の上にカードを置くことができた。同時に読みの練習も行った。「い」を覚えると、教室の中にある「い」を探して、「先生『い』あるよ。」と言ったり、まだ学習していない字を指差して「これ何？」と言ったりしていた。
- ・平仮名の学習を始めてから、絵本の中の字を指差して、「先生、『て』があるよ。」と言ったり、文字を見つけて自分で字を読んだりする姿が見られた。

【報告者の気付きとエビデンス】

○主観的な気付き

- ①写真カードを活用し、次にする活動の見通しがもてたことで、できるという自信につながり、一人で行動することができるようになったのではないかな？
- ②分からない言葉を『DropTalk』を手がかりに自分で調べたり、繰り返し音声模倣をしたりすることによって、本児が自分で間違いに気づいたり、正しい言葉を意欲的に学んだりでき、語彙が増えたのではないかな？
- ③平仮名のマッチングシートを活用することで、文字の形の違いが視覚的に分かり、平仮名の読みができるようになってきたのではないかな？

○エビデンス（具体的数値など）

①主体的な動きが増えた

- ・朝と帰りの準備の際に、写真カードを導入することで、自分が準備した物やまだできていない物を確認する姿が見られた。
- ・2学期の後半からは、教師からの支援がなくても、一人で準備することができるようになった。

帰りの準備	BL期		手だて①		手だて②		手だて③		手だてなし	
	5/13	5/14	5/30	6/5	7/17	7/18	9/5	9/6	11/28	11/29
かばんを開ける	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
連絡帳を入れる	△	△	△	△	△	○	◎	◎	◎	◎
連絡袋を入れる	△	△	△	△	△	○	○	○	◎	◎
水筒を入れる	△	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎
お箸セットを入れる	△	△	△	△	○	○	○	○	◎	◎
(歯磨きセットを入れる)	△	△	△	△	○	○	○	○	◎	◎
ハンカチを入れる	△	△	△	△	△	△	○	◎	◎	◎
かばんを閉める	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

【評価基準】◎自分からできた ○支援ありでできた（本児からの依頼） △支援ありでできた（教師からの声かけ） ×できなかった

表1 帰りの準備の成果

②語彙が増えた

・学校で使用する物の名前を覚えることができた（ランドセル、筆箱、鉛筆、消しゴム、お箸セット、水筒、机、椅子等）。また、分からなかった色名を4つ覚えることができた（黒色、赤色、黄色、白色、青色）。分からないときにはiPadを開いて、『DropTalk』を活用して自分で確認していた。

・学校で先生や友達に話すときにも、「トイレ行ったの?」「体育館(に)一緒に行こう。」「○○ちゃん、給食食べた?」と二語文以上で話すようになった。

・語彙が増えたことで、児童が教師との会話に変化が見られた。今までは単語だけですぐに終わっていた会話が、友達に自ら質問したり、友達から質問されたりする様子が見られた。今までは本児の言いたいことを友達が聞き取れず、教師が代わりに伝えていたが、本児の言いたいことが相手に伝わるようになり、子ども達同士で会話が成立するようになった。

・また家庭での変化もあり、言葉が増え、話す内容が具体的になった。

【保護者からの聞き取り】

・これまでは、具体的に答えられなかったけど、学校であった出来事を尋ねると、「魚釣り(を)したよ。」「花(に)水やった。」と話すようになりました。最近では、「明日の授業何?」と聞いてきます。

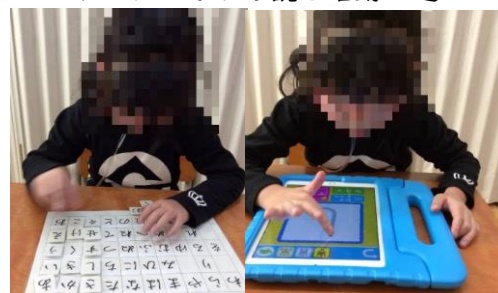
・(3学期の授業参観後)今まで単語や指差しだったのが、言葉をつなげて話すようになりました。先日幼稚園のときの先生に会ったら、「よく話すようになったね。」「話すのが上手になったね。」と褒められました。

③平仮名の読みができるようになってきた

・1学期には平仮名は全く読めなかった。2学期以降、平仮名カードをマッチングしながら読む活動を通して、読める平仮名が増えた。

1学期	2学期	3学期	計
0字	9字(あ、い、う、え、お、か、き、し、に)	18字(く、け、こ、ち、つ、て、と、な、ぬ、ね、の、ひ、ふ、へ、み、め、ゆ、ん)	27字

表2 読めるようになった平仮名



写真⑨平仮名の学習をしている様子

・その他エピソード（画像などを含めて）

・絵の内容が変化した。1学期は小さな○や線ばかり描いていたが、2学期末には、担任の顔の絵を描いたり、魚の絵を描いたりしていた。



写真⑩ 1学期に描いた絵



写真⑪ 2学期に描いた
魚の絵



写真⑫ 2学期に描いた
担任の絵